

総論

満点	100点	目標得点	60点	試験時間	90分	偏差値	72
大問数	2						
【解答形式】	選択式	0/2問	記述式	1/2問	論述式	1/2問	
【問題難易度】	C	0/2問	B	1/2問	A	1/2問	
※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：文学部は小論文の合否左右度が、他学部比べてもかなり高い。英語が一定以上できることは当然として、歴史で多少のハンディがあっても、小論文ができて合格するケースが多い学部である。
- 2：ここ数年は、課題文の要約説明と意見論述の2問構成で、総字数は700字前後である。要約説明は、一般的な要約とはやや異なり、重要箇所のキーワードをただ抜いてまとめるだけでは高得点にはならない出題である。
- 3：過去には、文化論や近代論、哲学的テーマが多かったが、最近では表現をテーマにした課題文が続けて使用されている。

こんな力が求められる！

- 1：完璧な読解力と、それに基づいた理解力・論述力が求められる。要約説明では、重要箇所をまとめるだけでなく、自分の言葉で説明し直す力も求められている。また、課題文の内容が理解できても、それに対して自分なりに論じるのが難しいテーマが多い。自らの視点で解釈し直したり、自分なりの論点から論じたりする考察力が求められる。
- 2：過去問演習が最良の対策であり、お茶ゼミ「論文」の授業ではこれを徹底的に行っている。文学部と類似する面の多い法学部の過去問も共に演習するので、一石二鳥の効果が期待できる。

参考図書

課題文の出典となった、栗山民也『演出家の仕事』（岩波新書、2007年）や、昨年度の出典である堀江敏幸『パン・マリーへの手紙』（岩波書店、2007年）にあるような文章を抵抗なく読むことができれば、文学部小論文を突破できる基礎的読解力があると言えるだろう。

大問別分析

【設問Ⅰ】

予想配点	40 / 100点	時間配分の目安	40 / 90分
字数	180字以上200字以内		
出題形式	課題文型		
テーマ	肉声による対話というダイアローグの時間が他者への伝達において果たす役割		
出典	栗山民也『演出家の仕事』		
設問形式	要約説明		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す A		

Benesse お茶の水ゼミナール

●解答のポイント&対策等

課題文前半で述べられている、聞くこと＝対話であるということを理解した上で、それが他者への伝達にどんな役割を果たすのかを説明する。聞くこと＝対話であるということは、つまりは相互関係の中で前へ進む時間である。単なる一方的な伝達ではなく、他者との関係性故の双方向的な伝達を生み出す役割を果たすということを、自分の言葉で述べられればよい。課題文中のキーワードは利用しつつ、決して抜き書きだけで終わらせないことが大切。抜き書きだけだと、「聞くこと」の説明だけで終わってしまい、役割の説明にならなくなってしまう。

こうした問題に対応するためには、単なるベタ要約の練習だけではなく、「それはつまりこういうこと」と、自分なりに説明し直してみる必要がある。また、課題文中のキーワードを押さえることはもちろん、その論理から新たなキーワードを自分なりに発見してみる努力も、説明力を磨くだろう。

【設問Ⅱ】

予想配点	60 / 100 点	時間配分の目安	50 / 90 分
字数	480 字以上 520 字以内		
出題形式	課題文型		
テーマ	「聞く力」と「アンサンブル」との関係		
出典	【設問A】に同じ		
設問形式	意見論述		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す B		

●解答のポイント&対策等

「聞く力」と「アンサンブル」との関係について論じる。「聞く力」は設問1でまとめた役割と同様の力であり、課題文前半で述べられている。「アンサンブル」とは、その「聞く力」によって可能となる調和、つまり、異質な者の声を聞き、ぶつかり合うことで生まれる調和、個々が自由に開かれることから生じる調和であり、課題文後半で述べられている。

「聞く」＝「対話」の力があるからこそ、カタチにはめる統一性ではなく、異質な者が集まる場で生々しく形成される一体感が生まれる……というのが、著者の考える「聞く力」と「アンサンブル」との関係といえる。

この主張を踏まえ、自分なりの見解を論じる。課題文における「聞く力」と「アンサンブル」との関係をまずまとめるならば、なるべくコンパクトにする。そうでなければ、520 字以内という分量の中では、自分の見解を展開する余裕がなくなって論理構成がアンバランスになってしまうか、なぞり答案になってしまう。まずまとめるのではなく、「聞く力」と「アンサンブル」との関係とは何か具体化して提示するのもよい。その場合、課題文で展開されているような「表現」の他の領域を例にあてはめてもよいし、「アンサンブル」が自己と他者の関係を示していることから、社会・組織の調和に置き換えてもよい。

「著者の主張をふまえ」と指示されているのだから、個々の声（意志）を聞くことで調和が形成されるという著者の問題意識を理解した上で、そこから自分なりの論点や問題意識を引き出して、発展させることができれば、高得点が望める。たとえば、「異質な者の声を聞く」とは本質的にどういう事であるから調和に結びつくのか、著者の述べる「調和」は難しいという認識ならば、異質な者の声を聞くことの難しさとは何か、それをどう越えられるのか……といった、自分の視点からの論に仕上げる工夫が必要である。